



公益財団法人日本ライオンズ主催



Lions Clubs International  
FOUNDATION

# 第4回全国特別支援学校 フットサル大会





# Contents

1	公益財団法人日本ライオンズ 役員	
2	公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト	
3	ごあいさつ	
4	祝辞	
7	開催要項	
8	運営組織	
9	全国大会熱戦譜	
	プロローグ	
	成績	優勝 東京都立中央ろう学校
		準優勝 愛知県立名古屋聾学校
		3位 富山県立富山高等支援学校
		4位 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園
		5位 北海道白樺高等養護学校
		6位 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校
		7位 兵庫県立西神戸高等特別支援学校
		8位 熊本県立熊本はばたき高等支援学校
		9位 岡山県立岡山瀬戸高等支援学校
		10位 京都府立八幡支援学校
		11位 宮城県立支援学校岩沼高等学園
		12位 愛媛県立宇和特別支援学校
36	開会式、閉会式	
40	大会講評	
41	地区大会参加校一覧	
44	地区大会記録	
52	次回大会開催の告知、会場、連絡先一覧	

---

## 公益財団法人日本ライオンズ 役員

理 事	小野寺 眞 悟 (理事長)	評 議 員	北 畑 英 樹
	不老 安 正 (相談役)		吉 村 千鶴子
	喜 多 友 一		廣 田 晃 一
	小 川 晶 子	監 事	橋 本 勝 策
	片 山 雅 裕		倉 田 雅 史
	渡 邊 俊 弥	事務局長	増 澤 義 治
	大 山 恭 範		
	池 原 堅		
	池 上 信		
	久保田 信 也		

# RESPECT

## 公益財団法人日本ライオンズの大会基本コンセプト 自立と RESPECT

### ○自立への願い

公益財団法人日本ライオンズは、特別支援学校の多くの生徒が、卒業後、実社会に出て就労することを踏まえて、生徒が自ら判断し、自立的行動が可能になるように、生徒の主体的判断を尊重する大会を目指しています。

このため本大会は、通常のフットサル競技会では許されている監督・コーチのベンチでの指示・命令を禁止しています。監督・コーチは、選手交代時以外はベンチに座り、状況を見守り、生徒の自立的行動を正確に把握して、穏やかな態度で、生徒が主体的な判断・決定・実行する力を高めるよう、温かな思いやりのある行動を期待しています。

### ○RESPECTへの願い

生徒は、卒業後、実社会に出た場合、RESPECT「他人への思いやり」があれば、大抵のことは円滑に進めることができます。この大会を通して、自校や他校の生徒同士、学校の先生、大会関係者、特にゲームでは審判へのRESPECT行動を具体的に示す大会を目指します。

このため会場では、自校の生徒同士、引率の先生、対戦相手校の生徒と先生、審判、大会関係者などにはRESPECTを表す「こんにちは」や「お願いします」「ありがとうございます」などの具体的な礼儀や言葉遣いを行うことを期待しています。

区分	開催地	日程	会場
第1回	札幌	2022令和4年11月4日開会式 11月5日 競技会、表彰式、閉会式	北ガスアリーナ
第2回	福岡	2023令和5年11月3日開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	アクション福岡
第3回	名古屋	2024令和6年11月1日開会式 11月2日 競技会、表彰式、閉会式	中村スポーツセンター
第4回	東京	2025令和7年10月31日開会式 11月1日 競技会、表彰式、閉会式	京王アリーナTOKYO サブアリーナ
第5回	姫路	2026令和8年11月6日開会式 11月7日 競技会、表彰式、閉会式	ヴィクトリーナ・ウイंक体育館
第6回	中国・四国	2027令和9年11月5日開会式 11月6日 競技会、表彰式、閉会式	広島市開催予定
第7回	北信越	2028令和10年11月3日開会式 11月4日 競技会、表彰式、閉会式	金沢市開催予定
第8回	東北	2029令和11年11月2日開会式 11月3日 競技会、表彰式、閉会式	仙台市開催予定
第9回	北海道	2030令和12年11月1日開会式 11月2日 競技会、表彰式、閉会式	札幌市開催予定
第10回	九州	2031令和13年10月31日開会式 11月1日 競技会、表彰式、閉会式	福岡市開催予定

## ごあいさつ



公益財団法人日本ライオンズ  
理事長 **小野寺眞悟**

この度、「第4回全国特別支援学校フットサル大会」が、関係各位のご尽力により東京都において盛大に開催され、全国12地区大会に出場した138校の中から選ばれた代表校12校が一堂に会し、正々堂々と全国の覇を競い合うことができましたこと、主催者として心より深く御礼申し上げます。

本大会は、障がいの種類や程度、年齢段階の違いを超えて、全国の特別支援学校に学ぶ生徒が集い、互いに励まし合いながら夢と希望を育む場として創設されたものです。試合の場面では、生徒同士が主体的に考え、工夫し、互いに声を掛け合いながらプレーする姿が随所に見られ、その成長の軌跡に大きな感銘を受けました。障害を持つ生徒がスポーツを通じて自らの可能性を広げ、社会で生きる力を育てている姿は、私たちに深い感動と勇気を与えてくれます。

ここに「第4回全国特別支援学校フットサル大会」の記念誌を、スポーツ庁並びに全国特別支援学校長会をはじめとする関係各位のご尽力により編纂できたことを、改めて深く感謝申し上げます。本誌が、特別支援学校に学ぶ生徒への理解をさらに広げ、彼らの未来を支える一助となれば幸いです。

また、次年度は兵庫県姫路市にて「第5回全国特別支援学校フットサル大会」を開催する予定です。これまで以上に多くの生徒が夢と希望を胸に集い、互いに切磋琢磨しながら成長する姿を、皆様とともに見守りたいと願っております。

当法人は、今後も本大会を通じて、生徒の夢と希望を育み、社会で自立して生きる力を養うために尽力してまいります。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 祝 辞



スポーツ庁長官  
**河合 純一**

この度、第4回全国特別支援学校フットサル大会が盛大に開催されましたことを、心からお祝い申し上げます。

本大会が継続して開催されていることは、特別支援学校におけるスポーツ活動が着実に根付き、児童生徒の皆さんの成長と交流の輪が広がっている証であり、大変意義深いものと存じます。全国から集まった生徒が、フットサルを通じて互いに励まし合い、友情を育み、交流を深める姿は、スポーツの持つ力を改めて実感させてくれるものです。このような大会の開催に御尽力いただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様に、心から敬意を表します。

昨年開催された東京2025デフリンピックをはじめ、国際的な大会の開催を通じてパラスポーツへの注目が一層高まっております。本年には愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会の開催を控えており、こうした流れの中で、本大会が特別支援学校の児童生徒にとってスポーツ活動の機会を広げ、未来への希望につながる契機となることを強く願っております。

結びに、貴団体の益々の御発展と関係者の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



ライオンズクラブ国際財団理事長  
ファブリシオ・オリベイラ

ご参加の皆様ならびにご関係者様

第4回全国特別支援学校フットサル大会が東京で開催されましたことを、謹んでお慶び申し上げます。生徒の皆さんは日々の練習の成果を存分に発揮し、頑張ってくださいました事と存じます。

ライオンズクラブ国際財団 (LCIF) は、ライオンズクラブ会員と私たちと目的を共有するパートナーの皆様からの寄付により、「健康と福祉を向上させ、コミュニティを強化し、困っている人たちに支援を提供する」という使命のもと、集めたご寄付の100%を様々なかたちで奉仕事業に活用しています。

なかでも日本はLCIF最大の寄付国であり、昨年度は当財団に対して1,100万USDの支援をいただきました。LCIFの交付金は様々な人道支援分野を支援しますが、青少年への人道支援は長年LCIFが大切にしてきた奉仕分野です。LCIFは、特別支援学校の皆さんの自立と自分と相手への尊敬を育むことを目的に開催されてきたこのフットサル大会の意義に共鳴し、この事業を応援する日本のライオンズクラブ会員の皆様のご要望を受けて、2025年9月に公益財団法人日本ライオンズが主催する全国特別支援学校フットサル大会をLCIFが交付金を通して支援することを認めたパートナーシップ協定を締結致しました。この協定により、LCIFと日本ライオンズのパートナーシップが深まり、このフットサル大会が幅広い方々に理解・応援され末永く継続していくことを願っております。

結びとなりますが、大会の参加に向けて、生徒をサポートしてくださいました保護者の皆様ならびに学校関係者の皆様、そして開催に向けて努力されたライオンズクラブ会員ボランティアの皆様にご心より感謝申し上げます。今大会への参加が子供たちの成長と自立につながる機会となったことを願っております。

奉仕の心で



ライオンズクラブ国際協会国際会長  
A. P. シン

ご参加の皆様ならびにご関係者様

第4回全国特別支援学校フットサル大会が開催されましたことを、心よりお祝い申し上げます。

まずは、今大会のために練習を重ねてきた生徒の皆さんの努力に大きな敬意を表しますとともに、子供たちを日々サポートし、大会の開催にご協力いただきました保護者の皆様ならびに先生方にも心より感謝申し上げます。日本のライオンズが主催するフットサル大会に、多くの学校がご参加いただけることを大変嬉しく思います。

ライオンズ・インターナショナルは現在、世界200カ国で135万人を超える会員がそれぞれの地域のため、さらには世界中で助けを必要とする人々の役に立つために様々な奉仕活動を行っています。その中でも、青少年支援は我々の重要な奉仕分野の1つと捉え、若者がよい選択をし、健全で生産的な生活を送り、次世代の奉仕リーダーになれるよう、様々な形で支援を行っています。本大会は、「子どもたちの生活、子どもたちの世界をよりよい未来につなぐかけ橋になる」という公益財団法人日本ライオンズの想いに賛同する日本のライオンズ会員の皆さんの思いやりと協力が形となって青少年をサポートしている、とても素晴らしい活動です。

このような大会が、子供たちの成長の機会と将来への希望を与える活動として、今後もさらに発展していかれることを願っております。

ともに奉仕を

## 祝 辞



東京都知事

**小池 百合子**

このたび、「第4回全国特別支援学校フットサル大会」が、ここ東京都で盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

全国各地からご参加いただいた選手の皆様、指導者の皆様、そしてご家族の皆様に、深く敬意と感謝の意を表します。また、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました公益財団法人日本ライオンズの皆様をはじめ、すべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会では、「自立とRESPECT」の理念のもと、選手の皆様が真摯に競技に臨まれ、仲間との絆を深める姿が、観る者に大きな感動と勇気を与えてくれました。選手の皆様にとっても、日頃の練習の成果を発揮するだけでなく、社会性を育み、未来の担い手として大きく成長する有意義な機会となったのではないのでしょうか。

去る11月には「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」が開催され、世界各国から聴覚障害のあるアスリートが集い、サッカーをはじめとする21競技において熱戦が繰り広げられました。

デフリンピックの素晴らしい経験を通じて感じた、スポーツの力とインクルーシブ社会の実現に向けた希望は、この大会で更に確かなものとなりました。

真の共生社会の実現に向け、東京都として、皆様と共にしっかりと歩んでまいります。

結びに、本大会に参加された選手並びに関係者の皆様の益々の御健勝と御多幸を心から祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



全国特別支援学校長会

会長 **緒方 直彦**

第4回全国特別支援学校フットサル大会が、全国から集まった選手の皆さん、そして大会を支えてくださった公益財団法人日本ライオンズの皆様、関係者の皆様のおかげにより、御盛會うちに実施されましたこと、心より敬意を表します。

私自身、今回の大会を実際に観戦し、選手一人ひとりの真剣な眼差し、仲間を信じて最後まで諦めない姿に深く感動いたしました。ゴールを決めた瞬間の歓喜、失敗しても仲間と励まし合う姿は、スポーツの持つ力と、特別支援教育の本質を改めて教えてくれました。そこには勝敗を超えた「挑戦する勇氣」と「支え合う心」があり、観る者すべてに希望を与えるものでした。

この大会は、特別支援学校の子どもたちの可能性を広げる場であると同時に、全国の特別支援学校がつながり、互いに学び合う貴重な機会だと感じました。今後もこの輪がさらに広がり、より多くの笑顔と感動が生まれることを願ってやみません。

最後に、選手の皆さんの努力と情熱に心から拍手を送るとともに、本大会及び公益財団法人日本ライオンズクラブ様のますますのご発展を祈念して挨拶とさせていただきます。

# 開催要項

- 1 目的** 本大会は、特別支援学校生徒がフットサルを通して、日々、鍛錬してきた成果を踏まえ、自校生徒間のチームワークを深めるとともに、他校生徒に敬意を持って接することにより、広く社会性を養い、就労への意欲を高めて、インクルーシブ社会の実現に向けた当事者としての成長に寄与することを目的に開催します。
- 2 主催** 公益財団法人日本ライオンズ
- 3 協賛** ライオンズクラブ国際財団(LCIF)
- 4 後援** スポーツ庁、全国特別支援学校校長会
- 5 主管** 第4回全国特別支援学校フットサル大会 実行委員会
- 6 運営協力** ライオンズクラブ国際協会330 及び333 複合地区
- 7 全国大会**
- (1)開催期日 2025年11月1日(土) 午前9時
- (2)会場 競技会場：京王アリーナTOKYO  
宿 泊：ヴィラフォンテーヌグランド東京有明  
式 典：ヴィラフォンテーヌグランド東京有明
- (3)日 程 2025年10月31日(金) 午後3時半～ 抽選会 ヴィラフォンテーヌグランド東京有明  
午後5時 開会式 ヴィラフォンテーヌグランド東京有明  
2025年11月1日(土) 午前9時～ 競技会 京王アリーナTOKYO  
午後6時 表彰式・閉会式  
ヴィラフォンテーヌグランド東京有明
- (4)宿 泊 ヴィラフォンテーヌグランド東京有明 住所：東京都江東区有明2-5-1

## 8 地区大会

- (1)日 程 2025年7月～9月までの間に、全国12地区において地区大会を開催すること。
- (2)開催組織 各地区大会は、次の組織等が担当すること。

地区大会	ライオンズクラブ担当	地区大会の担当組織	主管担当
北海道地区	331 片山 雅裕	公益財団法人明日佳	鈴木 重男
東北地区	332 渡邊 俊弥	一般社団法人東北サッカー協会	天本 清隆
		東北福祉大学	大西 孝志
東関東地区	333 山川 洋	関東知的障がい者サッカー連盟	木村 純一
西関東地区	330 小川 晶子		
北信越地区	334 大山 恭範	一般社団法人北信越サッカー協会	谷内 浩仁
東海地区	334 大山 恭範	東海地区大会実行委員会	野村 政司
東関西地区	335 廣田 晃一	関西知的障がい者サッカー連盟	芥川 豊和
西関西地区			
中国地区	336 池原 堅	環太平洋大学サッカー部	桂 秀樹
四国地区			
北九州地区	337 池上 信	一般社団法人沖縄県障がい者サッカー連盟	金城 充
南九州地区		社会福祉法人杉の木会 杉の木園	清末 直樹

## 9 出場資格

- (1)教育課程 特別支援学校学習指導要領に基づく教育課程で学ぶ特別支援学校等であること。
- (2)チ ャーム 単独校生徒で編成されたチームであること。
- (3)校長承認 各校は校長の承認の下で、1チームを参加すること。
- (4)編 成 1チームの上限は、生徒8名、引率者3名、合計11名で編成すること。
- (5)補 助 各地区大会出場校は、地区大会予算の範囲内で助成を受けることができる。
- (6)地区大会 各地区大会は、各地区の状況を踏まえた大会要領の下で開催すること。
- (7)全国大会 地区大会の優勝校は、主催者が経費負担する全国大会に出場すること。

## 10 競技方法

国際サッカー連盟制定のフットサル競技規則を適用するものとする。  
競技規則の詳細は、全国大会要項及び地区大会要項による。

## 11 その他

生徒の卒業後の就労・生活等に役立つよう、生徒の主体性を重んじること。

# 運 営 組 織

大会会長	小野寺真悟	公益財団法人	日本ライオンズ	理事長
大会副会長	山川 洋	公益財団法人	日本ライオンズ	副理事長
大会理事	小川 晶子	公益財団法人	日本ライオンズ	理事
大会総括責任者	倉田 雅史	ライオンズクラブ国際協会	330 複合地区	ガバナー協議会議長
大会アドバイザー	伊賀 保夫	公益財団法人	日本ライオンズ	監事
大会実行委員長	石田 真一	ライオンズクラブ国際協会	330 複合地区	担当委員長
大会実行副委員長	上野 繁幸	ライオンズクラブ国際協会	330-A 地区	ガバナー
大会実行副委員長	森川 吉孝	ライオンズクラブ国際協会	330-B 地区	ガバナー
大会実行副委員長	三浦 宏仁	ライオンズクラブ国際協会	330-C 地区	ガバナー
大会事務局長	平賀 新也	ライオンズクラブ国際協会	33- B 地区	甲府舞鶴ライオンズクラブ

## 競技運営・救護部会 京王アリーナ TOKYO での競技及び救護運営全般

部会長	村木 秀之	330- A 地区	東京数寄屋橋ライオンズクラブ
副部会長	鹿野 祥誠	330- A 地区	東京数寄屋橋ライオンズクラブ
副部会長	伊藤 一美	330- A 地区	東京三鷹ライオンズクラブ
副部会長	木内 健太	330- A 地区	東京築地ライオンズクラブ
副部会長	市岡 隆志	330- A 地区	東京府中ライオンズクラブ
委員	高根澤輝之	330- A 地区	東京セイシンライオンズクラブ
委員	坂本 純一	330- A 地区	東京三鷹ライオンズクラブ
委員	小山 俊一	330- A 地区	東京数寄屋橋ライオンズクラブ
委員	柏原 義明	330- A 地区	東京数寄屋橋ライオンズクラブ

## 行事進行部会 開会式・競技開始・閉会式等の進行担当

部会長	中村 安次	330- A 地区	東京巣鴨ライオンズクラブ
副部会長	宇田 英樹	330- A 地区	東京銀座ライオンズクラブ
副部会長	岩下 浩之	330- A 地区	東京中央南ライオンズクラブ
委員	星 京子	330- A 地区	東京巣鴨ライオンズクラブ

## 移動部会 参加生徒の迎え他、競技場への誘導及び競技補助

部会長	猪野塚弘樹	330- C 地区	八潮ライオンズクラブ
副部会長	山口 哲生	330- C 地区	春日部ライオンズクラブ
副部会長	平岡 幹朗	330- C 地区	入間ライオンズクラブ

## 宿泊部会 宿泊関係の案内誘導・会場設営補助

部会長	小松 和芳	330- B 地区	横浜戸塚中央ライオンズクラブ
副部会長	佐藤 文哉	330- B 地区	川崎多摩川ライオンズクラブ
副部会長	小野寺 誠	330- B 地区	大和リパティライオンズクラブ
副部会長	梶谷 美雄	330- B 地区	厚木ライオンズクラブ

## 総務部会 参加者全般の管理、受付、記念品、弁当飲み物手配

部会長	大滝 靖生	330- B 地区	小田原白梅ライオンズクラブ
副部会長	出川 溪二	330- B 地区	川崎田島ライオンズクラブ
副部会長	佐原 幸雄	330- A 地区	東京みやこライオンズクラブ
副部会長	秋山隆一郎	330- B 地区	小田原白梅ライオンズクラブ
IT 担当	堀米 博	330- B 地区	横浜ライオンズクラブ
IT 担当	宮田 暢人	330- B 地区	川崎ライオンズクラブ

## プログラム部会 プログラム作成及び全体補助

部会長	平賀 新也	330- B 地区	甲府舞鶴ライオンズクラブ
-----	-------	-----------	--------------

## サポート部会 全体のサポート担当

部会長	亀井 真司	330- B 地区	横須賀ライオンズクラブ
副部会長	鳥居 真弓	330- B 地区	大和中央シティライオンズクラブ



全国大会  
熱戦譜

# 東京都立中央ろう学校が初出場V



公益財団法人日本ライオンズ(小野寺眞悟理事長)が主催する第4回全国特別支援学校フットサル大会が令和7年11月1日、東京都調布市の京王アリーナTOKYOで開催された。2025年度は地区大会から過去最高の138校が参加した中、全国各地から12校の精鋭が優勝を目指し熱戦が展開された。

年々レベルが上がっている本大会は、今年度も過去最高といえる技術の高さ、戦術理解度で予選リーグから差のない熱戦が展開された。その中で優勝候補筆頭は3連覇を目指す栃木県立支援学校宇都宮青葉高等学園(東関東)だったが、優勝の栄光を手にしたのは初出場の東京都立中央ろう学校(西関東)だった。

逆境をはね返しての優勝だった。予選リーグ初戦の北海道白樺高等養護学校戦(北海道)で逆転負け。鋤田嵐士監督は「各学校さんのレベルがすごく高くて本当に勝てるのかと感じました」という中、選手同士が自ら鼓舞し合い、2戦目を勝利し、3戦目は勝った方が1位抜けという兵庫県立西神戸高等特別支援学校(西関西)戦を3-1と勝ち抜き、1~3位リーグに駒を進めた。決勝リーグでは愛知県立名古屋聾学校(東海)を1-0と破り、引き分けでも優勝と

いう条件で最終戦の富山県立富山高等支援学校戦を迎え、一時は1-3とリードされたが後半残り2分で同点に追いつき執念で優勝を飾った。

6月に同好会として立ち上げわずか5カ月余りで全国の頂点に輝いた要因は、10番の佐藤一侍主将(2年)と11番の中川遥翔選手(3年)という、大会最高レベルの圧倒的テクニックを持つ2人を周囲がしっかり支えて快挙といえる。佐藤主将は2025年に行われた聴覚障害者W杯の日本代表に選出され、中川選手はJリーグを目指しているという本気度がうなずける技術だった。4年連続出場で悲願の2位入賞を果たし名古屋聾学校のゴレイロ(GK)を中心とした組織的かつ体を張った守備力も素晴らしかった。予選で3連覇を狙った宇都宮青葉高等学園を破り、決勝リーグでも中央ろう学校を追い詰めた3位の富山県立富山高等支援学校(北信越)の鋭いカウンター攻撃も目を見張った。

熱く激しい戦いも終わればノーサイド。閉会式後の食事は笑顔が絶えない雰囲気各校生徒の交流の場となり、感動と友情に包まれ幕を閉じた。次々ページからは閉会式を含め各チームの熱戦ぶりを振り返っていく。

# 第4回全国特別支援学校フットサル大会東京大会 試合結果

2025年11月1日(土) 京王アリーナ — TOKYO

## 予選リーグ

Aブロック				Bブロック				Cブロック				
あ	い	う	え	か	き	く	け	さ	し	す	せ	
熊本はばたき	名古屋聾(愛知)	鹿児島	岩沼(宮城)	岡山瀬戸	富山	宇和(愛媛)	宇都宮青葉(栃木)	八幡(京都)	西神戸(兵庫)	中央ろう(東京)	白樺(北海道)	
熊本はばたき	1× 1-2	3× 1-2	5○ 4-0	岡山瀬戸	1× 0-1	3○ 6-0	5× 0-4	八幡(京都)	1△ 0-0	3× 0-3	5× 0-2	
名古屋聾(愛知)	1○ 2-1		6○ 2-0	4○ 5-1	富山	1○ 1-0	6○ 3-2	4○ 2-1	西神戸(兵庫)	1△ 0-0	6× 1-3	4○ 2-1
鹿児島	3○ 2-1	6× 0-2		2○ 3-0	宇和(愛媛)	3× 0-6	6× 2-3	2× 1-5	中央ろう(東京)	3○ 3-0	6○ 3-1	2× 1-2
岩沼(宮城)	5× 0-4	4× 1-5	2× 0-3		宇都宮青葉(栃木)	5○ 4-0	4× 1-2	2○ 5-1	白樺(北海道)	5○ 2-0	4× 1-2	2○ 2-1

## 決勝リーグ

各ブロック1位	ア	イ	ウ
ア 名古屋聾(愛知)		1○ 4-0	2× 0-1
イ 富山	1× 0-4		3△ 3-3
ウ 中央ろう(東京)	2○ 1-0	3△ 3-3	

各ブロック2位	カ	キ	ク
カ 鹿児島		1× 1-4	2△ 2-2
キ 宇都宮青葉(栃木)	1○ 4-1		3○ 1-0
ク 白樺(北海道)	2△ 2-2	3× 0-1	

各ブロック3位	サ	シ	ス
サ 熊本はばたき		1○ 6-0	2× 1-3
シ 岡山瀬戸	1× 0-6		3× 2-4
ス 西神戸(兵庫)	2○ 3-1	3○ 4-2	

各ブロック4位	タ	チ	ツ
タ 岩沼(宮城)		1△ 1-1	2× 1-2
チ 宇和(愛媛)	1△ 1-1		3× 0-1
ツ 八幡(京都)	2○ 2-1	3○ 1-0	

## 最終順位

- 1位 東京都立中央ろう学校
- 2位 愛知県立名古屋聾学校
- 3位 富山県立富山高等支援学校
- 4位 栃木県立特別支援学校  
宇都宮青葉高等学園
- 5位 北海道白樺高等養護学校
- 6位 鹿児島県立鹿児島高等  
特別支援学校
- 7位 兵庫県立西神戸高等特別支援学校
- 8位 熊本県立熊本はばたき高等支援学校
- 9位 岡山県立岡山瀬戸高等支援学校
- 10位 京都府立八幡支援学校
- 11位 宮城県立支援学校岩沼高等学園
- 12位 愛媛県立宇和特別支援学校



# 東京都立中央ろう学校

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸2-22-10  
全校生徒 / 113人 部員 / 9人

## 鋤田嵐士監督

今年6月にフットサル同好会を立ち上げてまず、全国出場を目標にしてきましたが、まさか優勝できるとは考えていませんでした。選手達はほかの部活動に入っていて、月に2、3回しか練習できない状況の中でこのような成果を出せたということは、チーム内でコミュニケーションが取れている状態で戦術も選手達が考えて、その成果が全部発揮できての優勝につながったのは本当にうれしく思います。主将の10番佐藤一侍主将や11番の中川遥翔選手は個人的にクラブチームでフットサルやサッカーをしていて個人技が磨かれていて、中川選手はJリーグを目指しているのも、彼らの技術の高さがチームを引っ張ってくれました。

初出場で正直レベルが高すぎて、予選リーグ初戦の白樺さんに負けた時に、勝てるのか?と感じ、雰囲気も最悪でしたが、主将が「上を向こう」と話してくれて、切り替えられたことで次の京都八幡戦に勝って、負ければ3位だった西神戸にも勝って予選1位になったことが決め手になりました。1～3位リーグで優勝がかかった富山戦では1-3で負けていて、ピヴォを3人置く戦術に変えたことで追いつくことができました。

大会の理念にあるように、生徒達が自分たちで戦術を考えてコミュニケーションを取ってのプレーをすべての試合で達成できたことが勝利につながったと思います。雰囲気も素晴らしい大会で来年度もぜひ出場を目指したいと思います。



## 佐藤一侍主将

私たちの学校にはサッカー部もフットサル部也没有せん。最初は同好会を設立することさえ夢のまた夢でした。しかし昨年6月、仲間たちとゼロから同好会を作り上げ、地区大会を勝ち抜き、ついに全国の舞台に立つことができました。初参加の全国大会は予想以上に強度が高く、観客の熱気や他校の闘志が伝わる、胸が高鳴る舞台でした。予選最終

戦では1位通過をかけた接戦、決勝リーグ最終戦では2点リードされながらも、互いに鼓舞し、信じ合い、全員で繋がって追いつき全国優勝を掴み取りました。この経験は仲間の大切さや支え合う意味、共に挑む喜びを教えてくださいました。大会を支えてくださった主催者様、学校や先生方、対戦相手の皆様、応援して下さった皆さまに心から感謝します



# 同好会結成わずか5カ月の歓喜





# 愛知県立名古屋聾学校

〒464-0021 愛知県名古屋市千種区鹿子殿21番1号

全校生徒 / 91人 部員 / 14人

## 塩澤直也監督

(2025年) 4月当初はフットサルを初めて行う生徒も多く、基本技術が伴っていない生徒も多い中、まさか2位という結果が得られるチームになるとは思っていませんでした。ですが生徒達が日々、真面目に練習に取り組み、練習試合を重ねていく中で、見違えるほど上達していき、東海大会も優勝することができました。

この全国大会も含め『最後まであきらめない、相手をリスペクトする、全部勝つ』をチームの合言葉として活動してきた、そのとおりに皆が一生懸命に戦ってくれた結果だと思います。4年連続出場できて、去年までの経験は大きかったと思いますし、悔しい思いもしてきたので今年こそは何としてもという思いは彼らの中にあっただと思うので、上級生が下級生をうまく引っ張ってくれました。

今年は堅守で勝ち進めたと思いますが、当たり前のことですが、取られたボールは自分で奪い返す、そしてあきらめない気持ちを持って取り組めたことが守備力の強化につながったと思っていますし、1~3位リーグ最終戦で東京中央ろう学校に0-1で負け2位となりましたが、高い技術を持つ相手に1番守備を頑張ってくれたと思います。最後の試合だったので全部出し切ってくれました。

優勝まであと一歩だったので、生徒達も悔しがっていたので、あと一つを超えるためにまた頑張ってくれと思います。この経験を糧に普段の学校生活も頑張してほしいですし、この大会を最後に引退して社会に出て行く生徒も一生懸命に活動していきたく思います。



## 中西大翔主将

去年は自分たちの力を出し切れず、8位という悔しい結果でした。

「第3回大会に出場した学校を絶対に倒す」と誓って、今大会に挑みました。

昨年度の記録を上回り準優勝という結果でしたが、本当に悔しかったです。

この1年間でチームとしてまとまることができ、チームワークも高まりました。

試合では、持ち前のチームワークを発揮し勝つことができたようになりました。

試合をすることが本当に楽しかったです。

全国大会では、予選リーグから決勝リーグまでの5試合を、最後まで一瞬も気を抜かず戦い抜くことができたことを誇りに思います。

悔しさが残った大会でしたが、後輩たちがこの想いを引き継いでリベンジしてくれると信じています!



## あきらめない精神で2位躍進





# 富山県立富山高等支援学校

〒939-2206 富山県富山市坂本2600  
全校生徒 / 55人 部員 / 10人

## 河村拓監督

昨年度は宇都宮青葉高等学園さんに負けて5位という結果で、今大会は宇都宮さんにリベンジして優勝という目標にしていたので、リベンジできたことは良かったです。エースの四ツ嶋幸之助君が宇都宮さんのエースとマッチアップしたいと言ってきて、彼なら勝ると信じていました。優勝には届かなかったですが、名古屋聾学校さんに負けてしまったのは自分の作戦ミスで、優勝した中央ろう学校さんには引き分け、優勝できる力をつけていたと思い、満足しています。

指導して嬉しかったのが、選手達が自分の予想をいつも超える成長を見せてくれることです。チームのため、仲間のため、応援してくれる方々のために優勝したいという気持ちで戦ってくれて、人間的に成長した面が一番嬉しいです。

ベストゲームは最後の中央ろう学校戦です。名古屋さんに負けた後「5点取れば優勝できる」と檜谷心太主将と四ツ嶋君が仲間を鼓舞して気持ちをしっかり切り替えて、技術的には上のチームに対して気持ちとチーム力で勝とうと臨み互角の試合ができたと思います。

主将とエースは1年からこの大会に参加していますが、本当に人間的に成長してくれました。特別支援学校の生徒がフットサルやサッカーをできる機会はとても限られていて、この大会があることで将来も競技を続けたり、感謝の気持ちをもって人と接する思いやりの心を身につけられたりする機会ができることがすごく大きいと思っています。



## 檜谷心太主将

この大会は1年生の時から出場していますが、2回とも宇都宮青葉高等学園さんが優勝しています。昨年度は予選リーグで戦いましたが1-4という結果に終わりました。今年度はもう一度みんなで気持ちを高めて宇都宮さんを倒すという気持ちを胸に戦いました。予選リーグで宇都宮さんと当たることが決まった夜に、宇都宮さんの昨年度大会のDVDを見て対策して臨みました。特にエースの大久保選手を2人でマークす

ることを徹底しました。勝った瞬間はうれしくて「やったぞ!」という気持ちでした。最後の中央ろう学校さんとの試合は3年生は最後になるので「この試合を楽しもう」と声かけしました。3-1から追いつかれてしまいました。力を出し切った思いはありました。優勝できなかった悔いがありますが、楽しかったです。この大会を通じてコミュニケーションや仲間を信頼する強さを学びました。



# 3年連続出場で集大成の3位





# 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園

〒320-8506 栃木県宇都宮市京町9-32  
全校生徒 / 240人 部員 / 22人

## 吉高神猛監督

予選リーグの富山さんに負けてしまい、Bブロック2位となり3連覇を逃してしまいました。富山戦は相手のエースのマークに主将で攻撃の要である大久保史弥選手が取られてしまったことが大きかったです。経験の少ない1、2年生にマークさせるより大久保選手自身が責任を持ってマークにつくと言ってくれましたが、結果的に得点力が落ちてしまいました。負けた後も、練習でやってきたことを試合で出そうと、原点に立ち返って試合をしてくれたと思いますし、ひとつでも上の順位で終わろうと主将が声かけをしてくれたので4位で終わったと思います。

3連覇という周囲の期待があったので、全員がプレッシャーもあったと思います。大会を振り返ると、優勝させていただいた2、3回大会よりもレベルが上がりましたし、それに合わせて準備してきたつもりでしたが、それ以上に他チームが強かったと感じました。大久保君は障がい者日本代表の試合に出たり、大会前には栃木県代表で試合をこなしたり、疲れもあったと思いますが、責任感と芯がしっかりした生徒だと改めて感じました。結果は出なかったですが、最高の主将でした。今年の1年生は2連覇を聞いて入学してきた生徒もいましたし、彼らの戦いを見てまた部員が入ってきてくれればと思います。



## 大久保史弥主将

3連覇できなかったことはすごく悔しいです。予選リーグの富山戦の敗戦は自分が相手のエースのマークにつきましたが、それに時間を取られすぎて、得点ができませんでした。結果的には自分が前に行って、後ろは3人に守ってもらった方が良かったと思います。正直、3連覇というプレッシャーはめっちゃくちゃありました。前回までは主将が本当にチームを引っ張ってくれたおかげで優勝できたので、自分も仲間へ積

極的に声かけをして引っ張ってきたつもりです。この大会をきっかけに日本代表にも入ってアルゼンチン遠征などもさせてもらいました。代表ではコミュニケーションの大切さや技術を学んだので、チームにも還元してきたつもりですが結果が出なかったことは残念です。3年間この大会に出られたことは自分やチームにとって大きな財産となりました。後輩達には絶対に優勝を取り返してほしいです。



## 3連覇逃すも意地見せた





# 北海道白樺高等養護学校

〒061-1264 北海道北広島市輪厚621番地1

全校生徒 / 138人 部員 / 21人

## 坪井駿監督

白樺の戦いは1年前(2024年)のあの日から始まりました。

令和6年度の北海道予選ではわずかな得失点差で予選敗退し、大会後のミーティングで彼らは大粒の涙を流しました。「来年は絶対に北海道代表として全国大会に出場する」とその涙とともに掲げました。

学校生活では、日々の体力づくりで心と身体を鍛え、高校からサッカーを始めた部員が多いというチーム事情を逆手に取り、基本に立ち返った『シンプルな戦術』を徹底し、個々の役割を明確にする練習を繰り返しました。

また、大会理念でもある『自主自立』に伴い、生徒自身がデザインした練習着でチームの一体感を醸成し、北海道コンサドレ札幌やエスボラダ北海道のプロスポーツ観戦を通じてトップレベルの連携を学び、チーム間で人間関係性を深

められる取り組みを多く取り入れ、目標としていた全国大会の切符を掴み取りました。

全国大会では、会場の雰囲気や他チームのレベルの高さに圧倒される様子も見られましたが、第1試合から白樺らしく相手よりも多く速く走る攻撃と、粘り強く泥臭い守備の連携プレーから、優勝チームに逆転勝利することができました。

結果は5位という悔しさが残る順位でしたが、それ以上に生徒達は大会を通して、目標に向かって努力すること、人との繋がりがチームを支えるかけがえのない財産となることを学びました。彼らが連れてきてくれたこの夢舞台上、無限の可能性と、諦めない強さを感じることができました。感動を与えてくれた部員全員に、心からの感謝を伝えたいです。



## 中山太陽主将

自分たちの課題は初戦の入り方でした。緊張で自分たちのプレーができないことが多く、思うような結果にならないことがありました。その中で迎えた初戦の相手は優勝した東京都立中央ろう学校でした。一人一人がチームのために頑張ってくれたおかげで、勝つことができました。とても強い相手でしたが、勝てたのは自分たちが今まで努力してきた積み重ねだと思います。これからも1、2年生には初戦の入り方に自信をもって取り組んでほしいです。

大会初出場で緊張や不安がありました。みんなが楽し

くプレーできたと思います。どの学校を見てもパスやドリブル、フィールドの動き方まで全てのレベルが高く、自分たちはまだまだと感じました。その中でもあきらめずに走り続けたことで5位という結果を得られました。得失点差で1～3位リーグに行けなかったのは悔しかったですが、とてもいい思い出になりました。

日本ライオンズの皆様、予選から様々な支援をいただきありがとうございました。このような大会を開催していただき、一生の思い出となりました。



# 1年前の悔しさ糧に5位躍進





# 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校

〒892-0861 鹿児島県鹿児島市東坂元3丁目28-1

全校生徒／90人 部員／16人

## 宮地正敏顧問

第1回大会以来、3大会ぶりの全国大会出場となりました。サッカー部としてフットサルに取り組んでいるので練習時間はもちろん、練習環境も制限がある中での活動となりました。今大会は昨年度までの悔しい想いを下に、年度当初からフットサルの練習を計画的に組み込んで大会に臨みました。

久しぶりの全国大会の競技レベルはかなり高くなっていました。サッカーとフットサルは似て非なる競技ですが、「止める」「蹴る」という基礎・基本の部分において相違はなく、その習得の重要性をますます感じました。大会6位という結果は、選手はじめスタッフにとって満足するものではなく、次回大会での雪辱を胸に日々の練習に励んでいこうと想いを新たにしました。

大会コンセプトである「自立」と「RESPECT」の理念は、本校校訓「学び合う 高め合う 助け合う」とも通じるところがあり、その親和性を感じています。自分達で考え、動くということが不得意な選手もいますが、「自分で考えて行動する」を意識して練習を重ねていく中で、チーム全体で思い描いたプレーをできるようになってくる姿に選手の成長を感じることもありました。

大会を主催し、多大な御支援をいただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様におかれましては、大変お世話になりました。第5回大会以降も選手主体で全国の仲間達と楽しく競技できる環境を整えてくださいますよう御支援よろしくお願いたします。



## 内村 洸太 主将

優勝するつもりで全国大会に出場しましたが、6位という結果はちょっと悔しかったです。僕たちの代では初めての全国大会ということもあり、実際に全国の学校のレベルの高さにびっくりしました。どの学校もトラップがしっかりできていて、パスもつながっていました。試合をしていて気持ちの強さが少し足りなかったと思いました。基礎的な練習を毎日積み上げていく

ことの大切さを、試合を通じて感じることができました。

この悔しさを忘れず、次年度も出場できるよう後輩達には1年間頑張ってもらいたいです。「ガオー!!」の勢いでこの大会を開いてくださった日本ライオンズのみなさん、本当にありがとうございました。来年も出場できるように頑張ります。



## 3大会ぶりの出場で躍動





# 兵庫県立西神戸高等特別支援学校

〒651-2204 兵庫県神戸市西区押部谷町高和1557-1

全校生徒 / 144人 部員 / 16人

## 吉見起一監督

今大会を終えて、地区大会から参加した138チーム中の7位という結果は、この大会に向けて生徒たちが日頃取り組んできた成果だと思います。予選リーグでは、1勝1分けて迎えた3戦目、東京都立中央ろう学校さんとの試合では、戦術面や技術面の差が出たなという印象でした。大会全体を見渡しても、どのチームもレベルが高く、順位ほどの差はないと感じましたが、大会の雰囲気や15分のランニングタイムの中で、決定機を決めきれなかったこと、流れを変えきれなかった部分が課題となりました。

今大会に向けては、神戸大学フットサル部の皆さまに戦術や技術面での指導をしていただきました。サッカーとフットサルの違いに戸惑う選手たちに一からわかりやすく指導をいただいたことに感謝しています。全国大会直前に体調不良の選

手が出たため、代わりに出場した3年生の選手が決勝ゴールを決めてくれて、努力が実を結ぶ瞬間に立ち会えたことは指導者としての大きな喜びでした。大会後の振り返りでも、選手間から「もっとコミュニケーションを取ろう」「声を掛け合おう」と、色々な学びや気づきをサッカーに繋げていこうとする姿勢が見られるようになってきたことが一番の収穫だと思います。

また、ベンチから指示を出さないことで、私自身も日頃の指導に活かせる部分があるなと感じましたし、生徒たち自身が今後の人生の中で自ら考え、判断し、選択していく場面で今回の経験が役立つことを期待しています。

最後になりましたが、主催者・関係者の皆様に深く感謝申し上げます。全国の舞台で得た悔しさと成長を胸に、必ずまたこの場所に戻ってきます。



## 吉田琳貴主将

チームとして全国大会優勝を目標に掲げていただけに7位という順位で終わってしまいとても悔しいです。予選リーグ最終戦で勝てば決勝リーグに行けるというところで1位の中央ろう学校さんに負けてしまいました。初めての全国大会ということもあり試合全体を通してチームの動きは硬かったと思います。特に1試合目はなかなか得点を奪えず、個人、チームとも落ち着きがなかったように感じ、大事な試合で勝ち切るこ

とができないのが今の實力だと感じました。優勝を目指して一緒にフットサルをしてくれた仲間にはとても感謝しています。大会を出場するにあたって戦術を教えてくださいました神戸大学フットサル部の皆さん、ありがとうございました。後輩には来年度こそ全国優勝を成し遂げてもらいたいと思います。最後になりましたが、大会を運営して下さった公益財団法人日本ライオンズの皆様ありがとうございました。



# 初出場で強豪相手に健闘





# 熊本県立熊本はばたき高等支援学校

〒862-0901 熊本市東区東町3丁目14番3号  
全校生徒 / 208人 部員 / 19人

## 松村知毅監督

初の全国大会という舞台上、8位という成績を掴み取った生徒達を誇りに思います。大会前、緊張している様子の生徒達に何と声を掛けようか悩んでいたところ、主将の細田君が「先生!緊張しますがそれ以上に楽しみです!」と満面の笑みで話してくれました。このとき、チームの心が一つにまとまった感覚が持てたとともに、今大会が生徒達にとって大きな成長の舞台になるだろうと確信しました。

大会までを振り返ると、限られた時間の中で、「勝つためにできる準備」をチームメイト一人一人が自ら考え、行動に移してくれていました。これまでの小さな努力の積み重ねが大きな自信に繋がったのだと思います。

大会当日は、試合を重ねるごとに成長していく生徒達の姿

に、心が躍りました。「相手を見ながら状況判断し、落ち着いてプレーする姿」や「互いに鼓舞し合う姿」など、全てが頼もしく安心して試合を見守ることができました。

また、今大会では、同じ志を持った仲間達と出会うことができました。試合中、試合後に見せてくれた「仲間や相手を思いやるリスペクトの精神」には、感動をもらいました。ピッチ内外で感じたものを大切に、今後の実生活につなげてほしいと思います。私も、生徒達の新たな目標や夢の実現に向け、日々精進して参ります。このような貴重な機会を提供していただいた公益財団法人日本ライオンズの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 細田虎之介主将

全国大会のピッチに立ったとき、これまでの努力や仲間と練習してきた日々を思い出しました。初めての全国大会で最初は少し緊張しましたが、それよりも「楽しもう」という気持ちが強くなりました。結果は、2勝3敗で12チーム中8位という結果でした。悔しさはありますが、試合後に相手選手と握手をする際、「楽しかった。ありがとう。」「強かった!」と声をかけてもらったことがとてもうれしかったです。

この大会で、チームワークやあきらめないこと、最後まで走り抜くことの大切さを改めて知ることができました。また、他校と絆を深めて交流できたこと、戦えたことがとても楽しく、本当に幸せでした。最後に、このような素晴らしい舞台を用意して下さった公益財団法人日本ライオンズの関係者の皆様、本当にありがとうございました。



# 自主性育み試合を重ね成長





# 岡山県立岡山瀬戸高等支援学校

〒709-0854 岡山市東区瀬戸町江尻1326

全校生徒 / 112人 部員 / 14人

## 長崎壮也監督

大会初戦は初出場での緊張もあり、普段通りのプレーができない様子がありました。しかし2試合目で得点が入ってからは徐々に自分達の力を発揮でき、初勝利をつかむことができました。午後の試合では、怪我をしたり足をつったりする生徒が続出する中でも、チーム全員で最後まで戦い切ることができました。

この大会に臨むにあたって、自分達の目標を達成するために日々の練習やミーティングに全力で取り組みました。試合中に指導者がコーチングできないことで、生徒達が自分の思いを自分で発信する重要性を感じ、積極的に声を出すようになりました。当初と比べると、どの生徒もプレー面だけでなく、コミュニケーション面や日常生活での振る舞いに成長が見ら

れ、改めて目標に向かって努力する大切さを実感しました。そして試合を重ねていく中でも、プレー中に指示を出し合ったり、失点しても励まし合ったりするようになり、生徒達が自主的に考え行動する場面を見ることができて、指導者としても本当に嬉しかったです。

全国大会での試合を通して、各学校のレベルの高さを痛感しました。また、試合後には相手チームの選手が挨拶やお礼をきちんと伝えてくれて、私達も見習うべきことが沢山ありました。この貴重な経験を生徒達の学習活動に活かしていくと共に、再びこの大会に参加できるように、部活動の中でも切磋琢磨していきたいと思います。



## 岩本美緑主将

初めての出場で決勝リーグに行く目標を立てていましたが、9位という結果に終わり悔しい気持ちです。それでもチームで練習してきたことを一人一人実践できて、とても良い大会になりました。全国大会はどのチームも強く、自分たちが思っている以上でした。主将として自分からチームの士気を上げて、

しっかり声を出してチームを引っ張ってきました。今回が3年生は最後の大会になりましたが、来年も後輩達が全国大会に行けるように、日頃から練習を頑張してほしいと思います。大会に関わってくださった皆様、素晴らしい大会を開催していただき、ありがとうございました。



# 初出場でかけがえなき1勝





# 京都府立八幡支援学校

〒614-8236 京都府八幡市内里柿谷16-1  
全校生徒 / 140人 部員 / 7人

## 海老名玲央監督

本校フットサルチームの生徒たちは、日々の練習や大会への挑戦を通して、技術面だけでなく人間性の面でも大きく成長してきました。自信をもって挑んだ京都大会では、どの学校もレベルが高く、簡単な試合はひとつもありませんでしたが、最後まで諦めずに戦い抜き、優勝することができました。そして、昨年度夏に負けてから“関西大会優勝”を目標に掲げた今年度の東関西大会では、敗戦も経験しながらもう一度チームが一つになり初優勝を果たすことができ、昨年の悔しさを晴らすことができました。

また、この結果は京都府の学校として初めての全国大会への出場となり、歴史的な一歩を踏み出したことは大きな誇りです。これまでの課題を見つめ、練習とミーティングを重ね挑

んだ全国の舞台では、そのレベルの高さに驚かされる場面も多く、悔し涙を流すこともありましたが、同時に自分たちのプレーが十分に通用する場面もあり、手応えを感じることもできました。勝敗以上に、全国の強豪と真剣勝負をした経験は、生徒たちにとってかけがえのない学びとなりました。

今回の挑戦を通して得た自信や悔しさ、仲間と支え合った時間は、生徒たちにとって今後の人生において必ず大きな糧になると思います。このような機会をいただきました日本ライオンズ様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も生徒たちがさらに成長し、自分の可能性を広げていけるよう、そして下級生たちには今年度の成績を超えられるよう、私たちは全力で支えていきたいと思っています。



## 松本琥我主将

全国という大舞台に立ててとても嬉しかった反面、10位という結果には悔しさも残りました。関西大会での優勝を自信に、全国大会に挑みましたが、改めて全国のレベルの高さを実感しました。最初は思い通りのプレーが出来ず、チームに迷惑をかけてしまいましたが、仲間が大きな声で励まし引っ張ってくれたおかげで、「やってやるぞ!」という気持ちに切り替えることができ、プレーをすることができました。大会を通して、

仲間に支えられる場面が本当に多かったです。

僕たちのチームスローガンは「必笑」です。負けた時でも笑顔を忘れずに挑み続ければ、必ず何かが変わると信じて取り組んできました。全国大会で改めて学んだ仲間の大切さとこの言葉を胸に、これからも様々なことにチャレンジしていきたいと思います



## 京都府初の出場「必笑」で奮闘





# 宮城県立支援学校岩沼高等学園

〒989-2455 宮城県岩沼市北長谷字豊田1-1  
全校生徒 / 115人 部員 / 13人

## 久野輝美監督

2大会連続で全国大会に出場させていただきました。初出場の昨年は最下位に終わり、生徒たちは悔しさを隠し切れないう状況でした。もちろんスタッフも同様です。その悔しさを原動力として今大会に向けて頑張ってきました。今年度は改めて大会の趣旨を生徒に伝え、練習時から生徒同士でコミュニケーションを取ることを意識させてきました。初めの頃は、生徒同士のコミュニケーションは思うように取れず、チームとしての連携もうまく回れない状況でした。時には生徒が不満の声を出してしまふ場面もあり、チームの雰囲気を悪くすることもありました。練習を重ねるに連れ、生徒たちもお互いを理解し始め、徐々にお互いのプレーに関して話し合う場面も見

られ、雰囲気も徐々に良くなっていきました。今大会を通し、生徒、チームの成長していく過程を見ることができ嬉しく思います。今回の成績は昨年より一つ順位を上げることができましたが、来年は更に上位を目指し、まずは予選を勝ち抜けるように生徒、スタッフ共に頑張りたいと思います。

今大会はこれまでよりレベルが高かったように思いますが、生徒もスタッフも他チームの選手らから良い刺激を受けました。また、事務局担当の方には多大なる御配慮をいただき、生徒、スタッフ共に思い出に残る良い旅になりました。今大会を企画運営して下さった日本ライオンズ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 長井琉生主将

今年度は昨年に比べ選手の層が厚く戦略も大きく変わったこともあり、東北大会では良い戦いをすることができました。全国大会ではチームの雰囲気も良く、昨年度はすべて負けてしまいましたが、今大会は1試合を引き分けることができ順位を上げることができて良かったです。

今大会も他チームのレベルが高く圧倒されました。自分たちのチームはフィジカル面が弱く、相手の強さに飛ばされる場面も多くありました。今後は今大会で出た弱い部分を課題と

して強化してほしいと思います。

主将としてチームを引っ張っていくことはあまりできませんでしたが、周りの仲間に助けられたり支えてもらったりしながら最後まで頑張ることができました。

このような大会を開いていただき、様々なところで支えてくださり主催者様にはとても感謝しています。次回の全国大会では、後輩のみんなにはぜひ優勝してほしいです!



## 最下位の悔しさ忘れずレベルアップ





# 愛媛県立宇和特別支援学校

〒797-0029 愛媛県西予市宇和町永長1287-1

全校生徒 / 167人 部員 / 12人

## 清家 哲監督

初出場ということで、緊張していましたが、全国大会に出場できたことが選手達にとって貴重な経験になりました。全国レベルがわからない状況の中、自分たちのやってきたことを全部出し切れるよう、チーム内で話をして意識を高めながら大会に臨みました。対戦相手は、強豪校ばかりでしたが、その中でも選手が全力を出し切って頑張っている姿に感動しました。また、主催の公益財団法人日本ライオンズ様をはじめ、たくさんの方々に素晴らしい会場の提供や交流会を催していただき本当に感謝しております。

本校は、フットサル部というものはなく、競技スポーツ部とい

う名目で様々な運動やスポーツを体験することを目的として部活動を実施しています。選手は全員で12名ですが、フットサルはほぼ未経験です。短い練習時間の中で、ルールや基本的な技術から指導していく難しさはありましたが、全国大会に出場することを目標に頑張ってきました。全国では12位という結果でしたが、1、2年生は早くも来年度も全国に行くという目標を立て意識を高めています。まだまだ全国のレベルには追いついていませんが、この経験を生かして、来年度も四国大会を勝ち切って全国大会に出場しリベンジしたいと思います。



## 篠田隆利主将

初めて全国大会に出場となり目標は決勝リーグ進出でしたが、結果は12位でした。

今大会は初出場ということもあり、試合ができる楽しみや緊張がある中、大会に臨みました。全国の強豪と対戦できて貴重な経験をすることができました。大会を終えて悔しい気持ちと、自分たちのチームに足りていないことや課題が沢山あるということを知りました。全国レベルのパスワークや冷静にプレーすること等の差を感じました。

主将として練習の時から声を出してチームを引っ張ってきました。チームリーダーとしての自覚を持ち、声を出したりチー

ムメイトを鼓舞したりしました。ときには、自分がチームメイトに引っ張られるときもあり、チーム全体で助け合いの気持ちをもって取り組んできました。後輩の皆さん、これからも練習に励んで、来年度も全国大会に出場できるように頑張ってください。

主催者の皆さん、運営に携わっていただいた皆さん、私たちのためにたくさんの準備をしてくださりありがとうございました。全国大会に出場し、とても貴重な経験ができてよかったです。



## 競技未経験から切磋琢磨し健闘



# 開会式

2025年10月31日 ヴィラフォンテーヌグランド東京有明



## 国歌斉唱 高らかに



あいさつする小野寺大会長



来賓祝辞のライオンズクラブ国際財団鶴嶋浩二理事



山川洋大会副会長が開会宣言



ビデオメッセージの小池百合子東京都知事



抽選結果を発表する石田真一大会実行委員長



抽選行う富山高等支援学校の檜谷心太主将

# 感謝と期待と闘志胸に秘め

## 選手宣誓

宣誓。

我々選手一同は、全国大会という舞台を目標に、仲間と共に汗を流し、時にぶつかり合いながら成長してきました。ここに立てたのは、共に歩んできた仲間。そして支えてくださった先生方や家族、関係者の皆さまのおかげです。多くの困難を乗り越えて掴んだこの舞台上、仲間を信じ、己を信じて、一瞬一瞬を全力で、正々堂々とプレーすることを誓います。

東京都立中央ろう学校 主将 佐藤 一侍



宇都宮青葉高等学園の大久保主将が優勝旗を返還



京都府立八幡支援学校のみなさん



組み合わせ抽選に臨む出場校の監督、主将



抽選に臨む白樺高等養護学校の中山太陽主将



熊本はばたき高等支援学校のみなさん

# 閉会式

2025年11月1日 ヴィラフォンテーヌグランド東京有明



小野寺大会長から優勝旗を表彰された東京都立中央ろう学校中川遥斗選手



次回姫路大会の須々木智実行委員長(左)と石田真一大会実行委員長



1位の東京都立中央ろう学校の選手と小野寺大会長(左端)、河合長官(左から2人目)



2位の名古屋聾学校選手と河合長官(左から2人目)、小野寺大会長(左端)



3位の富山高等支援学校選手と小野寺大会長

# 友情と歓喜と感動残し閉幕



大会役員、河合長官と選手達



大会MVPの名古屋聾学校の西田波琉選手と小野寺大会長



京都府立八幡支援学校のみなさん



食事会で交流する選手達



熊本県立熊本はばたき高等支援学校のみなさん



兵庫県立西神戸高等特別支援学校のみなさん



閉会式の開会宣言を行う日本ライオンズ小川晶子理事

# 大会講評

---



川崎みらいライオンズクラブ元地区ガバナー・名誉顧問

第4回大会実行委員長 **石田 真一**

まずは第4回を迎えました全国特別支援学校フットサル大会をつつがなく終えることができ、ご協力いただいた全国各地の参加校の皆さま、パートナーの皆さま、大会に係わるすべての皆さまに心より御礼申し上げます。

今大会は実行委員会という形でしたが、フットサル委員会だけではなく、倉田雅史ガバナー協議会議長に音頭を取っていただきライオンズクラブ330複合地区（A（東京都）、B（神奈川県、山梨県、伊豆大島）、C（埼玉県））の全委員会を挙げて皆で協力して、準備、運営に取り組みました。私の知る限り、複合地区が共同で2日間の大会運営をしたのは初めてで、2日間で約300人のメンバーにお手伝いや観戦いただき、非常に感動し、感謝の言葉しかありません。

今大会もこれまでと同様に、子どもたちの笑顔が絶えないような大会運営を心がけました。お迎えから、開会式、本戦、閉会式、懇親会や最終日のお見送りまで、全国から参加される子どもたちのために、という思いを胸に複合地区全員で遂行したつもりです。

大会を通じて子どもたちの成長ぶりにはいつも感動させられます。開会式では緊張気味な表情が、試合では真剣な表情で、自分たちで考えてプレーし大会理念の「自立」「リスペクト」を体現し、閉会式や懇親会では笑顔が絶えず、積極的に他校の選手とコミュニケーションを取れるようになる姿には改めて驚かされました。

大会を重ねるにつれて競技レベルも上がっており、人間的な成長にもつながる本大会に参加する学校様が増えていただきたいですし、一般の方々にも熱戦を観に来ていただきたいので、公益財団法人日本ライオンズを中心に広報や周知活動を進め、次回大会以降も子どもたちの笑顔を大切にす大会にしていきたいと願っております。

## 第4回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会参加校一覧

大会参加校数	地区大会参加校名	大会参加校数	地区大会参加校名
北海道 地区大会校 20校	北海道平取養護学校(2回) 北海道星置養護学校ほしみ学園(2回) 北海道今金高等養護学校(4回) 北海道中札内高等養護学校(4回) 北海道札幌高等養護学校(4回) 北海道釧路鶴野支援学校(3回) 北海道千歳高等支援学校(4回) 北海道白樺高等養護学校(4回) 北海道中標津支援学校(2回) 北海道高等養護学校(4回) 北海道札幌あいの里高等支援学校(4回) 北海道紋別高等養護学校(4回) 北海道新篠津高等養護学校(4回) 北海道伊達高等養護学校(4回) 北海道小樽高等支援学校(4回) 市立札幌豊明高等支援学校(4回) 北海道中札内高等養護学校幕別分校(3回) 市立札幌みなみの社高等支援学校(4回) 北海道小平高等養護学校(2回) 北海道函館高等支援学校(4回)	東海 地区大会校 17校	愛知県立春日井高等特別支援学校(4回) 愛知県立名古屋養護学校(4回) 岐阜県立大垣特別支援学校(1回) 岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校(4回) 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校(3回) 岐阜県立西濃高等特別支援学校(4回) 岐阜県立可茂特別支援学校(3回) 静岡県立御殿場特別支援学校小山分校(1回) 静岡県立富士特別支援学校富士東分(2回) 静岡県立富士特別支援学校富士宮分校(2回) 静岡県立袋井特別支援学校磐田見付分校(2回) 静岡県立藤枝特別支援学校(2回) 静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校(3回) 静岡県立浜松特別支援学校(3回) 三重県立福葉特別支援学校(1回) 三重県立くわな特別支援学校(1回) 三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園(4回)
東北 地区大会校 9校	青森県立八戸高等支援学校(2回) 岩手県立盛岡峰南高等支援学校(3回) 学校法人カナン学園三愛学舎(3回) 宮城県立秋保かがやき支援学校(2回) 宮城県立支援学校岩沼高等学園(2回) 宮城県立支援学校女川高等学園(3回) 秋田県立ゆり支援学校(4回) 秋田県立栗田支援学校(4回) 福島県立あぶくま支援学校(2回)	西関西 地区大会 10校	兵庫県立高等特別支援学校(4回) 兵庫県立東はりま特別支援学校(4回) 兵庫県立西神戸高等特別支援学校(3回) 兵庫県立芦屋特別支援学校(2回) 兵庫県立阪神特別支援学校分教室(1回) 大阪府立なにわ高等支援学校(4回) 大阪府立たまがわ高等支援学校(4回) 大阪府立とりかひ高等支援学校(3回) 大阪府立和泉支援学校(2回) 大阪府立だいでん聴覚高等支援学校(1回)
東関東 地区大会校 17校	千葉県立高等特別支援学校(1回) 千葉県立特別支援学校市川大野高等学園(4回) 千葉県立特別支援学校流山高等学園(4回) 千葉県立市原特別支援学校つるまい風の丘分校(4回) 千葉県立香取特別支援学校(1回) 茨城県立伊奈特別支援学校(1回) 茨城県立土浦特別支援学校(3回) 茨城県立水戸高等特別支援学校(4回) 茨城県立結城特別支援学校(3回) 茨城県立鹿島特別支援学校(4回) 日立市立日立特別支援学校(4回) 栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園(3回) 栃木県立国分寺特別支援学校(2回) 栃木県立豊学校(1回) 栃木県立足利中央特別支援学校(1回) 栃木県立南那須特別支援学校(2回) 栃木県立那須特別支援学校(2回)	中国 地区大会校 7校	鳥根県立松江養護学校(4回) 鳥根県立益田養護学校(4回) 広島県立黒瀬特別支援学校(3回) 岡山県立瀬戸高等支援学校(2回) 山口県立宇部総合支援学校(3回) 鳥取大学附属特別支援学校(1回) 広島県立福山北特別支援学校(1回)
西関東 地区大会校 15校	東京都立羽村特別支援学校(4回) 東京都立東久留特別支援学校(3回) 東京都立南大沢学園(4回) 東京都立青峰学園(4回) 東京都立志村学園(4回) 東京都立永福学園(4回) 東京都立八王子南特別支援学校(2回) 東京都立墨田特別支援学校(1回) 東京都立府中けやきの森学園(4回) 東京都立中央ろう学校(1回) 東京都立江東特別支援学校(1回) 東京都立水元小台学園(1回) 山梨県立高等支援学校桃花台学園(2回) 山梨県立ふじざくら支援学校(2回) 横浜市立日野中央高等特別支援学校(3回)	四国 地区大会校 3校	香川県立香川東部支援学校(4回) 愛媛県立宇和特別支援学校(3回) 愛媛県立今治特別支援学校(3回)
北信越 地区大会校 10校	新潟県立江南高等特別支援学校(3回) 富山県立富山高等支援学校(4回) 石川県立明和特別支援学校(4回) 石川県立小松特別支援学校(4回) 石川県立いしかわ特別支援学校(4回) 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校(3回) 富山県立高岡高等支援学校(3回) 新潟県立五泉特別支援学校村松分校(2回) 富山県立ふるさと支援学校(1回) 富山県立にかわ総合支援学校(1回)	東関西 地区大会校 11校	奈良県立高等養護学校(4回) 奈良県立ろう学校(4回) 京都府立八幡支援学校(4回) 京都府立舞鶴支援学校(4回) 京都府立城陽支援学校(4回) 京都府立中丹支援学校(3回) 京都府立井手やまぶき支援学校(3回) 京都教育大学附属特別支援学校(3回) 京都府立宇治支援学校(2回) 京都府立丹波支援学校(2回) 京都府立南山城支援学校(1回)
		北九州 地区大会校 10校	福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」(1回) 福岡県立糸島特別支援学校(1回) 福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」(3回) 佐賀県立伊万里特別支援学校(1回) 佐賀県立大和特別支援学校(1回) 長崎県立希望が丘高等特別支援学校(3回) 長崎県立島原特別支援学校(3回) 長崎県立虹の原特別支援学校(3回) 長崎県立佐世保特別支援学校(3回) 熊本県立熊本はばたき高等支援学校(2回)
		南九州 地区大会校 9校	大分県立さくらの社高等支援学校(3回) 大分県立大分支援学校(4回) 大分県立中津支援学校(1回) 宮崎県立日向ひまわり支援学校(3回) 宮崎県立みなみのかぜ支援学校(2回) 鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校(4回) 鹿児島県立牧之原特別支援学校(4回) 沖縄県立沖繩高等特別支援学校(3回) 沖縄県立中部農林高等支援学校(4回)

### 集 計

複 合	開催地区	参 加 高 数			
		2022 第 1 回大会	2023 第 2 回大会	2024 第 3 回大会	2025 第 4 回大会
331	北海道	15	19	20	20
332	東 北	3	7	11	9
333	東関東	7	10	12	17
330	西関東	7	8	11	15
334	北信越	4	7	8	10
	東 海	6	11	15	17
335	東関西	13	22	10	10
	西関西			13	7
336	中 国	6	9	4	7
	四 国	3	4	3	3
337	北九州	6	14	5	9
	南九州			10	10
合 計		70	111	122	138

# 北海道地区

2025年7月26日 北海道江別市野幌総合運動公園総合体育館

## 【カテゴリーI 順位決定リーグ】

	互戦成績			勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
平取	ほしみ	ほしみ	ほしみ	2	0	1	6	-2	1
	○	×	○						
ほしみ	平取	平取	平取	1	0	2	3	2	2
	×	○	×						

## 【カテゴリーII 予選リーグ】

### <Aリーグ>

	今金	中札内	札幌	網走鶴野	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
今金	○	○	○	○	2	0	1	6	5	2
中札内	○	○	○	○	3	0	0	9	12	1
札幌	○	○	○	○	0	1	2	1	-10	4
網走鶴野	○	○	○	○	0	1	2	1	-7	3

### <Bリーグ>

	千歳	白樺	中標津	高等聳	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
千歳	○	○	○	○	1	0	2	3	-1	3
白樺	○	○	○	○	2	1	0	7	25	1
中標津	○	○	○	○	0	0	3	0	-44	4
高等聳	○	○	○	○	2	1	0	7	20	2

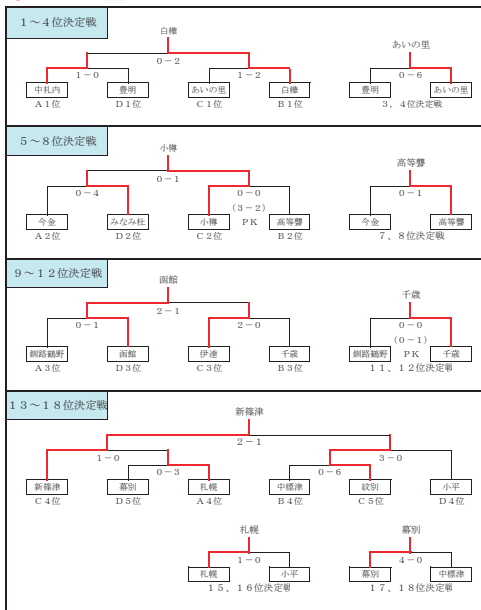
### <Cリーグ>

	あいの里	紋別	新篠津	伊達	小樽	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
あいの里	○	○	○	○	○	4	0	0	12	13	1
紋別	○	○	○	○	○	0	2	2	2	-9	5
新篠津	○	○	○	○	○	0	3	1	3	-1	4
伊達	○	○	○	○	○	1	1	2	4	-3	3
小樽	○	○	○	○	○	1	2	1	5	0	2

### <Dリーグ>

	豊明	幕別	みなみの杜	小平	函館	勝	引分	負	勝ち点	得失	順位
豊明	○	○	○	○	○	4	0	0	12	8	1
幕別	○	○	○	○	○	0	0	4	0	-15	5
みなみの杜	○	○	○	○	○	3	0	1	9	9	2
小平	○	○	○	○	○	1	0	3	3	-3	4
函館	○	○	○	○	○	2	0	2	6	1	3

## 【カテゴリーII 順位決定トーナメント】



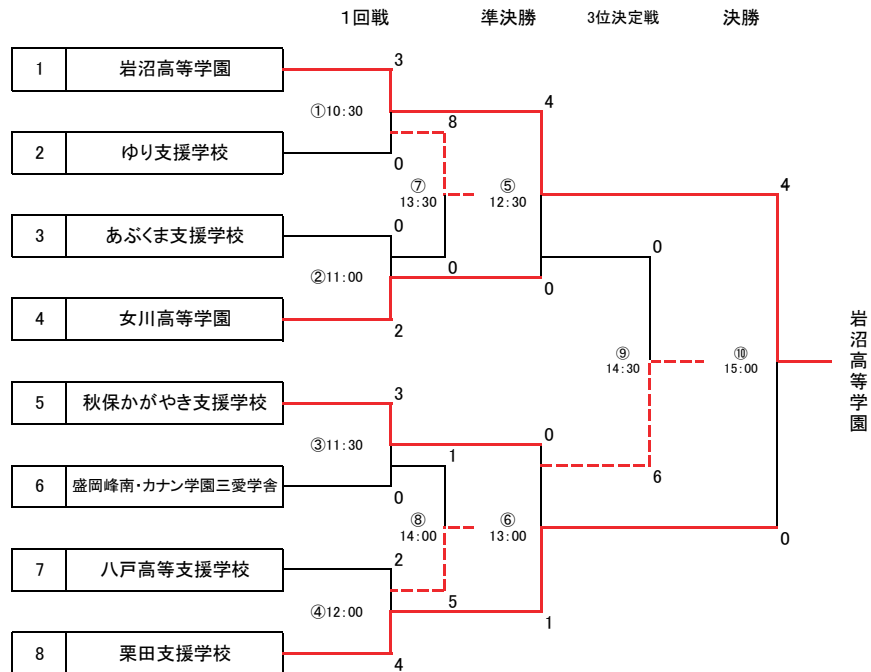
## <総合順位> 【カテゴリーI】

優勝	平取
準優勝	ほしみ

## 【カテゴリーII】

優勝	白樺
準優勝	中札内
3位	あいの里
4位	豊明
5位	小樽
6位	みなみの杜
7位	高等聳
8位	今金
9位	函館
10位	伊達
11位	千歳
12位	網走鶴野
13位	新篠津
14位	紋別
15位	札幌
16位	小平
17位	幕別
18位	中標津





タイムスケジュール

NO.	Time	Match	Stage
	10:00	開会式	
NO.1	10:30	岩沼高等学園 vs ゆり支援学校	1回戦
NO.2	11:00	あぶくま支援学校 vs 女川高等学園	1回戦
NO.3	11:30	秋保かがやき支援学校 vs 盛岡峰南・カナン学園三愛学舎	1回戦
NO.4	12:00	八戸高等支援学校 vs 栗田支援学校	1回戦
NO.5	12:30	岩沼高等学園 vs 女川高等学園	準決勝
NO.6	13:00	秋保かがやき支援学校 vs 栗田支援学校	準決勝
NO.7	13:30	ゆり支援学校 vs あぶくま支援学校	5位決定戦
NO.8	14:00	盛岡峰南・カナン学園三愛学舎 vs 八戸高等支援学校	5位決定戦
NO.9	14:30	女川高等学園 vs 秋保かがやき支援学校	3位決定戦
NO.10	15:00	岩沼高等学園 vs 栗田支援学校	決勝
	15:30	表彰式・閉会式	



# 東関東・西関東地区

2025年8月27日 ひがしアリーナ(東京都墨田区体育館)

西関東ブロック

南大沢	志村	中央ろう	桃花台
-----	----	------	-----

東関東ブロック

流山	宇都宮青葉	水戸高等	
----	-------	------	--

4チーム総当たりとする。(勝ち点：勝利3、引き分け1、負け0)  
 ※勝ち点が同一の場合、

①直接対決結果②得失点差③総得点数④抽選の優先順位で決定

→リーグ1位の1チームが全国大会出場

Aコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	1	10:30-11:00	南大沢	志村	本部
	2	11:00-11:30	流山	宇都宮青葉	本部
	3	11:30-12:00	南大沢	中央ろう	本部
	4	12:00-12:30	流山	水戸高等	本部
	5	12:30-13:00	南大沢	桃花台	本部
	6	13:00-13:30	流山	なし	本部

西関東	南大沢	志村	中央ろう	桃花台	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失	順位
1	南大沢	○ 3-0	× 0-3	○ 2-0	2	0	1	6	5	3	-2	2
2	志村	× 0-3	○ 3-0	× 0-1	1	0	2	3	2	5	-3	3
3	中央ろう	○ 3-0	○ 1-0	○ 3-0	3	0	0	9	7	0	7	1
4	桃花台	× 0-2	× 1-2	× 0-3	0	0	3	0	1	7	-6	4

Bコート 10-3-10分	No.	時間	ホーム	アウェイ	レフリー
	7	10:30-11:00	中央ろう	桃花台	本部
	8	11:00-11:30	水戸高等	なし	本部
	9	11:30-12:00	志村	桃花台	本部
	10	12:00-12:30	宇都宮青葉	なし	本部
	11	12:30-13:00	志村	中央ろう	本部
12	13:00-13:30	宇都宮青葉	水戸高等	本部	

東関東	流山	宇都宮青葉	水戸高等	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失	順位
1	流山	× 1-3	○ 5-0	1	0	1	3	6	3	3	2
2	宇都宮青葉	○ 3-1	○ 6-0	2	0	0	6	9	1	8	1
3	水戸高等	× 0-5	× 0-6	0	0	2	0	0	11	-11	3

それぞれのブロック1位が全国大会出場

西関東ブロック：中央ろう学校

東関東ブロック：宇都宮青葉高等学園



# 北信越地区

2025年9月7日 石川県かほく市ジョイアクロス「アクロス館」

◎全国大会予選の部

優勝 富山県立富山高等支援学校A

	富山A	小松	江南	明和	いしかわ	勝点	得差	順位
<b>富山A</b> 富山県立富山高等支援学校A		○ 6-1	○ 3-0	○ 7-0	○ 9-0	12	+24	1
<b>小松</b> 石川県立小松特別支援学校	×		○ 3-2	△ 0-0	○ 5-1	7	0	2
<b>江南</b> 新潟県立江南高等特別支援学校	×	×		○ 2-0	○ 6-0	6	+4	3
<b>明和</b> 石川県立明和特別支援学校	×	△ 0-0	×		○ 2-1	4	-8	4
<b>いしかわ</b> 石川県立いしかわ特別支援学校	×	×	×	×		0	-20	5

	高岡	新潟選抜	富山選抜	富山B	川岸	勝点	得差	順位
<b>高岡</b> 富山県立高岡高等支援学校		○ 2-0	○ 2-0	○ 5-0	△ 0-0	10	+9	1
<b>新潟選抜</b> 新潟県立江南高等特別支援学校 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校 新潟県立五泉特別支援学校村松分校	×		△ 2-2	○ 2-0	△ 1-1	5	0	2
<b>富山選抜</b> 富山県立いしかわ総合支援学校 富山県立ふるさと支援学校	×	△ 2-2		×	○ 3-0	4	0	3
<b>富山B</b> 富山県立富山高等支援学校B	×	×	○ 1-0		△ 0-0	4	-6	4
<b>川岸</b> 新潟県立江南高等特別支援学校川岸分校	△ 0-0	△ 1-1	×	△ 0-0		3	-3	5



# 東海地区

2025年7月31日 愛知県名古屋市立笹島小学校・中学校体育館

Aグループ		
	勝ち点	順位
1 岐阜県立大垣特別支援学校	4	2
2 愛知県立春日井高等特別支援学校	9	1
3 静岡県立御殿場特別支援学校 小山分校	4	3
4 静岡県立藤枝特別支援学校	0	4

Bグループ		
	勝ち点	順位
5 岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校	4	2
6 静岡県立富士特別支援学校 富士東分校	9	1
7 静岡県立浜松特別支援学校	0	4
8 三重県立稲葉特別支援学校	4	3

Cグループ		
	勝ち点	順位
9 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校	2	3
10 愛知県立名古屋聾学校	9	1
11 静岡県立富士特別支援学校 富士宮分校	1	4
12 三重県立くわな特別支援学校	4	2

Dグループ		
	勝ち点	順位
13 岐阜県立西濃高等特別支援学校	8	2
14 静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校	0	5
15 静岡県立藤枝特別支援学校 焼津分校	6	3
16 三重県立特別支援学校 伊賀つばさ学園	4	4
17 岐阜県立可茂特別支援学校	10	1

準決勝		
Aグループ 1位		
愛知県立春日井高等特別支援学校	0	2
Bグループ 1位		
静岡県立富士特別支援学校 富士東分校	2	1

Cグループ 1位		
愛知県立名古屋聾学校	2	1
Dグループ 1位		
岐阜県立可茂特別支援学校	0	2

3位決定戦		
愛知県立春日井高等特別支援学校	0	4
岐阜県立可茂特別支援学校	6	3

決勝戦		
静岡県立富士特別支援学校 富士東分校		2
愛知県立名古屋聾学校		1



# 東関西・西関西地区

2025年8月28日 大阪府堺市立大浜体育館

○予選リーグ(ランニングタイム 第1ピリオド10分、第2ピリオド10分、ハーフタイム5分)

○決勝トーナメント(ランニングタイム 第1ピリオド15分、第2ピリオド15分、ハーフタイム10分)

決勝トーナメント

## 西関西 Aブロック

	なにわ	西神戸	とりかい	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
なにわ		4-2	18-0	1	6	2	0	0	22	2	+20
西神戸	2-4		10-1	2	3	1	1	0	12	5	+7
とりかい	0-18	1-10		3	0	0	2	0	1	28	-27

## 西関西 Bブロック

	兵庫高等	たまがわ	芦屋	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
兵庫高等		2-0	5-0	1	6	2	0	0	7	0	+7
たまがわ	0-2		2-0	2	3	1	1	0	2	2	±0
芦屋	0-5	0-2		3	0	0	2	0	0	7	-7

## 東関西 Cブロック

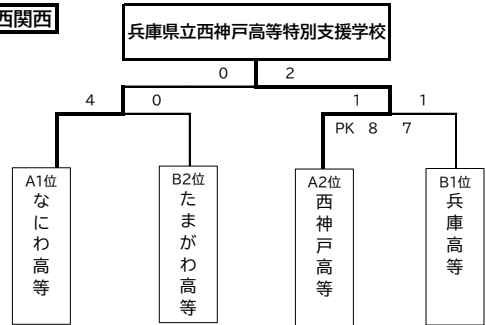
	奈良高等	丹波	井出やまがき	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
奈良高等		3-0	0-0	1	4	1	0	1	3	0	+3
丹波	0-3		0-1	3	0	0	2	0	0	4	-4
井出やまがき	0-0	1-0		2	4	1	0	1	1	0	+1

## 東関西 Dブロック

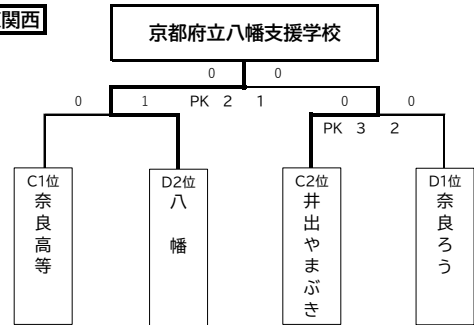
	八幡	奈良ろう	舞鶴	順位	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点
八幡		0-1	3-1	2	3	1	1	0	3	2	+1
奈良ろう	1-0		2-1	1	6	2	0	0	3	1	+2
舞鶴	1-3	1-2		3	0	0	2	0	2	5	-3

- ① 勝点は、勝3点、負け0点、引分1点とする。
- ② 順位はグループ内の勝点合計の多いチームを上位とする。
- ③ 勝点合計が同じ場合は、以下の順序により決定する。  
1 当該チーム同士の対戦成績 2 総得失点差 3 総得点数 4 抽選

## 西関西



## 東関西



# 中国・四国地区

2024年8月25日 岡山県・環太平洋大学第4体育館

## 中国地区

Aブロック			
	宇部総合支援学校	黒瀬特別支援学校	益田養護学校
宇部総合支援学校		2-0○	0-1●
黒瀬特別支援学校	0-2●		0-2●
益田養護学校	1-0○	2-0○	

Bブロック			
	鳥取大学附属特別支援学校	福山北特別支援学校	瀬戸高等支援学校
鳥取大学附属特別支援学校		5-1○	1-7●
福山北特別支援学校	1-5●		0-9●
瀬戸高等支援学校	7-1○	9-0○	
松江養護学校	2-0○	5-0○	0-0△

## 四国地区

	今治特別支援学校	宇和特別支援学校	香川東部支援学校
今治特別支援学校		1-1△/0-2●	0-0△/0-1●
宇和特別支援学校	1-1△/2-0○		3-0○/0-0△
香川東部支援学校	0-0△/1-0○	0-3●/0-0△	

代表決定戦	
益田養護学校	0-0 PK(2-3)
瀬戸高等支援学校	

エキシビジョン	
A	鳥取大学付属特別支援学校
B	益田養護学校
C	黒瀬特別支援学校
D	宇和特別支援学校
E	香川東部支援学校

Aコート				時刻	Bコート			
第1試合	宇部総合支援学校	2-0	黒瀬特別支援学校	10:45-10:55	第1試合	今治特別支援学校	1-1	宇和特別支援学校
第2試合	鳥取大学附属特別支援学校	5-1	福山北特別支援学校	11:05-11:15	第2試合	瀬戸高等支援学校	0-0	松江養護学校
第3試合	鳥取大学附属特別支援学校	0-2	益田養護学校	11:25-11:35	第3試合	黒瀬特別支援学校	1-1	宇和特別支援学校
第4試合	黒瀬特別支援学校	0-2	益田養護学校	11:45-11:55	第4試合	宇和特別支援学校	3-0	香川東部支援学校
第5試合	香川東部支援学校	5-0	鳥取大学附属特別支援学校	12:05-12:15	第5試合	益田養護学校	1-0	宇和特別支援学校
第6試合	鳥取大学附属特別支援学校	1-7	瀬戸高等支援学校	12:25-12:35	第6試合	福山北特別支援学校	0-5	松江養護学校
第7試合	益田養護学校	1-0	宇部総合支援学校	12:45-12:55	第7試合	香川東部支援学校	0-0	今治特別支援学校
第8試合	鳥取大学附属特別支援学校	0-2	松江養護学校	13:05-13:15	第8試合	福山北特別支援学校	0-9	瀬戸高等支援学校
第9試合	香川東部支援学校	0-2	黒瀬特別支援学校	13:25-13:35	第9試合	今治特別支援学校	0-2	宇和特別支援学校
第10試合				13:45-13:55	第10試合	黒瀬特別支援学校	0-2	鳥取大学附属特別支援学校
エキシビジョン3位決定戦	香川東部支援学校	0-0 PK(1-3)	宇和特別支援学校	14:05-14:15	第11試合	宇和特別支援学校	0-0	香川東部支援学校
エキシビジョン決勝	益田養護学校	0-0 PK(2-1)	黒瀬特別支援学校	14:25-14:35	第12試合	宇部総合支援学校	0-1	松江養護学校
代表決定戦	瀬戸高等支援学校	0-0 PK(3-2)	益田養護学校	14:45-14:55	第13試合	香川東部支援学校	1-0	今治特別支援学校



# 北九州・南九州地区

2025年8月17日 大分県日出町・速水フットサルコート

北九州地区（福岡県、長崎県、佐賀県、熊本県）・南九州地区（大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）

kick off	Mln.	Aピッチ (道路側)				Bピッチ (クラブハウス側)			
8:45		<b>開 会 式 (Aピッチ)</b>							
9:15	エンジョイ①	福岡県立 糸島特別支援学校	1-1	宮崎県立 みなみのかげ支援学校	エンジョイ②	大分県立大分支援学校	5-1	長崎県立 島原特別支援学校 高等部	
9:45	北九州地区ブロック③	熊本県立 はばたき高等支援学校	11-0	佐賀県立 伊万里特別支援学校	北九州地区ブロック④	長崎県立 希望が丘高等特別支援学校	1-2	福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」	
10:15	南九州地区ブロック⑤	鹿児島県立 鹿児島高等特別支援学校	2-0	大分県立 さくらの杜高等支援学校	南九州地区ブロック⑥	宮崎県立 日向ひまわり支援学校	0-1	沖縄県立 沖縄高等特別支援学校	
10:45	エンジョイ⑦	宮崎県立 みなみのかげ支援学校	0-14	大分県立大分支援学校	エンジョイ⑧	福岡県立 糸島特別支援学校	1-6	長崎県立 島原特別支援学校 高等部	
11:15	北九州地区ブロック⑨	熊本県立 はばたき高等支援学校	1-0	長崎県立 希望が丘高等特別支援学校	北九州地区ブロック⑩	佐賀県立 伊万里特別支援学校	0-8	福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」	
11:45	南九州地区ブロック⑪	鹿児島県立 鹿児島高等特別支援学校	19-0	宮崎県立 日向ひまわり支援学校	南九州地区ブロック⑫	大分県立 さくらの杜高等支援学校	3-0	沖縄県立 沖縄高等特別支援学校	
12:15		<b>お 昼 休 憩</b>							
13:00	エンジョイ⑬	宮崎県立 みなみのかげ支援学校	0-3	長崎県立 島原特別支援学校 高等部	エンジョイ⑭	福岡県立 糸島特別支援学校	0-9	大分県立大分支援学校	
13:30	北九州地区ブロック⑮	熊本県立 はばたき高等支援学校	2-0	福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」	北九州地区ブロック⑯	佐賀県立 伊万里特別支援学校	0-8	長崎県立 希望が丘高等特別支援学校	
14:00	南九州地区ブロック⑰	鹿児島県立 鹿児島高等特別支援学校	6-1	沖縄県立 沖縄高等特別支援学校	南九州地区ブロック⑱	大分県立 さくらの杜高等支援学校	25-0	宮崎県立 日向ひまわり支援学校	

エンジョイ部門

	糸島	大分	島原	勝ち点	得点	失点	順位
糸島	1-1	0-14	0-3	1	1	18	4
大分	14-0	7-0	0-7	1	2	14	3
島原	3-0	6-1	1-5	9	26	1	1
				6	10	6	2

北九州地区 (福岡・佐賀・長崎・熊本)

	熊本	伊万里	希望ヶ丘	北九州	勝ち点	得点	失点	順位
熊本	11-0	1-0	2-0	0	9	14	0	1
伊万里	0-11	0-8	0-8	0	0	27	4	
希望ヶ丘	0-1	8-0	1-2	3	9	3	3	
北九州	0-2	8-0	2-1	6	10	3	2	

南九州地区 (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)

	鹿児島	さくらの杜	日向	沖縄	勝ち点	得点	失点	順位
鹿児島	2-0	19-0	6-1	9	27	1	1	
さくらの杜	0-2	25-0	3-0	6	28	2	2	
日向	0-19	0-25	0-11	0	0	55	4	
沖縄	1-6	0-3	11-0	3	12	9	3	



# 第5回全国特別支援学校 フットサル大会の開催の告知

- 1 主 催 公益財団法人日本ライオンズ
- 2 後援予定 スポーツ庁、兵庫県、姫路市、全国特別支援学校長会
- 3 各地区大会の日程  
2026年(令和8年)6月から9月までの間で、全国12地区において地区大会を開催する。
- 4 全国大会の日程
  - (1)開催期日 2026年令和8年11月6日(土)
  - (2)会 場 ヴィクトリーナ・ウイंक体育館(姫路市立中央体育館)
  - (3)日 程 11月5日(金) 午後4時 開会式  
11月6日(土) 午前9時30分 全国大会  
11月6日(土) 午後6時 表彰式・閉会式



次回姫路大会の須々木智実行委員長(左)と石田真一大会実行委員長

## 第5回全国特別支援学校フットサル大会各地区大会 開催期日及び会場

(2025.1.31現在)

区 分	開催期日	開催会場
北海道 331地区	7月25日(土)	北翔大学浅井記念館
東北 332地区	8月1日(金)	仙台市青葉体育館
東関東 333地区 西関東 330地区	8月26日(水) 予定	墨田区総合体育館 予定
北信越 334地区	9月6日(日)	ジョイアクロス「アクロス館」(アクロス高松)
東海 334地区	7月31日(金)	名古屋市立笹島小学校・中学校 体育館
東関西 西関西 335地区	8月1日(金)	ヴィクトリーナ・ウインク体育館
中国 四国 336地区	8月23日(日)	IPU・環太平洋大学 第4体育館
北九州 南九州 337地区	8月23日(日)	速水フットサルコート A/B

# 公益財団法人 日本ライオンズ 寄付報告書 Ver.01

ご記入日	年	月	日
振込日 (銀行明細の取引年月日)	年	月	日
振込金額	円		
地区／クラブ名	地区	ライオンズクラブ	
寄 付 者 情 報	メンバー： 会員番号		
	一般： ご紹介者名		
	法人・個人 名		
	ご連絡先	電話（携帯）	-
E-MAIL		@	
所 属 ク ラ ブ 連 絡 先	電話	-	-
	FAX	-	-
	E-mail	@	
寄付情報に関する問い合わせ担当者			
指 定 寄 付	希望しない・希望する <span style="float: right;">(○で囲んでください)</span>		
	ご希望される指定寄付（以下、○で囲んでください） 寺子屋事業・フットサル事業		
	その他：		
領 収 書 送 付 先	送付先宛名：		
	送付先 〒		都 道 府 県
	ご住所：		
備 考	領収書宛名：		
	振込先		
	銀行名／支店名 三井住友銀行 東京公務部 口座 普通預金 0178781 口座名 公益財団法人日本ライオンズ【(ザイ)ニホンライオンズ】		
報告用紙 送付先	公益財団法人日本ライオンズ E-Mail : office@lions-zaidan.or.jp TEL/FAX:03-6262-6108		

発行日 2026年1月31日  
発行者 公益財団法人日本ライオンズ  
監 修 小野寺眞悟  
編 集 木村健太郎  
編集者 第4回全国特別支援学校フットサル大会編纂委員会  
印 刷 柏楊印刷株式会社







公益財団法人 **日本ライオンズ**

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目2-4 八重洲ノリオビル5階  
TEL. 03-6262-6108